

モニタリング項目 No.20（適正な利用・エコツーリズムの推進）の 実施結果について

1. 調査内容と対象団体

エコツーリズム検討会議の構成員や提案事業に取り組む下表の18団体を対象に、巻末別紙に掲載した調査シートの内容について聞き取り調査を行い、14団体から回答を得た。なお、設問の対象期間は2022年1月から2023年12月までの2年間としている。

No.	団体名	No.	団体名
1	環境省	10	知床羅臼観光船協議会
2	林野庁	11	知床ウトロ海域環境保全協議会
3	斜里町役場	12	斜里山岳会
4	羅臼町役場	13	羅臼山岳会
5*	知床斜里町観光協会 知床五湖冬期利用促進事業検討部会	14	石川幸男委員
6	知床羅臼町観光協会	15	愛甲哲也委員
7	知床ガイド協議会	16	公益財団法人 知床財団
8	知床羅臼ガイド協議会	17	オホーツク総合振興局保健環境部 環境生活課 知床分室
9	知床小型観光船観光船協議会	18	ガイド事業者

*調査対象が重複したため、1団体として聞き取りを行った。

2. 結果

①「知床エコツーリズム戦略」の基本方針について

【基本原則】	該当
遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。	11 団体
世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。	9 団体
持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。	13 団体

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】	該当
事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。	10 団体
事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。	10 団体
自然環境の保全に配慮している。	11 団体
利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。	11 団体
事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。	9 団体
利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。	8 団体
事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。	11 団体
事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。	6 団体

【回答を辞退した団体のご意見】

- 直接事業者ではない団体であり、主体的に関連する項目が無い。
- ここ数年は客が少なくてアンケートどころではない。持ってくるべきはアンケート用紙ではなく「どうしたら知床財団とガイド事業者が共により良くなっていくか」という案である。

「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取組があるか

■特に力を入れている取組

- ・ 厳冬期における知床の自然の魅力や価値を多くの人に伝えるエコツアープログラム
- ・ 海鳥ウィーク期間のイベント開催（海鳥トーク、観光船での海鳥観察トークなど）
- ・ HELLY HANSEN 知床店と共同で”Shiretoko Salmon Study Tour”実施
- ・ 羅臼 VC にて「カフェ湯の沢」開催（夏・冬）
- ・ コロナ禍で2019年度から中止が続いていた「斜里っ子自然教室」再開
- ・ バスデイズやカムイワッカ湯の滝のぼりなどの事業モニタリングへの協力
- ・ Goldwin と共同で “Shiretoko Drift Ice Walking & Forest Snowshoe Hiking” 開催
- ・ 知床サステナブルウィークの開催
- ・ オンライン配信／インスタライブを活用したトークイベントの実施
- ・ 半島先端部地域立ち入り者へのレクチャー実施と受講証発行
- ・ トビニタイ文化期のルサに関するパンフレット作成（羅臼町委託事業）
- ・ カムイワッカ湯の滝1の滝以奥利用試行事業とそれに伴う利用者案内、現地管理、情報発信等の実施。
- ・ 日本の他の世界遺産サイトとの連携・交流（小笠原、西表島・竹富町）

■新たに始めた取組

- ・ （厳冬期のエコツアー）ここ数年は暖冬の影響もあり、60日間の実施期間が短縮される傾向にある。ルート選定を柔軟にして体験機会の創出を維持。
- ・ 知床財団ホームページのリニューアル（2022年度）
- ・ 知床オータムバスデイズにて、バス内でヒグマ対策スタッフによるトーク実施（2022年度のみ）。

■今後の実現に向けて検討中の取組

- ・ 他のガイドが行わないツアーを考え、お客様が知床を理解し喜んで頂くことを第一に、公園外の場所でのツアーを考えている。
- ・ 2023年9月に札幌で開催されたアドベンチャートラベル・ワールドサミット（ATWS）に参加。今後より多くのインバウンドの集客に力を入れたい。

■特に意識している点

- ・ 特にエコツアーを意識しての取り組みは行ってない。今おこなっていること全てがエコツーリズムに乗った企画であるため、エコツーリズムを意識して考えることはない。
- ・ 観光船事故の影響もあり、地域全体としてリスクマネジメントの重要性が再認識された。安全確保と管理責任について特に意識している。

②エコツーリズムに関わる利用者・参加者の数や意識、行動の状況について

利用者・参加者の数	
増加している	3 団体
減少している	1 団体
どちらともいえない	10 団体

利用者・参加者の意識	
変化している	6 団体
変化していない	2 団体
わからない	6 団体

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になる点
<p>■利用者・参加者数の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体利用は減少傾向に拍車がかかり、外国人の比率は 2023 年から回復した印象だが、コロナ禍前の水準には戻っていない。 ・（羅臼観光船業）冬も夏もインバウンドが増加した。冬では 43%ほどがインバウンドの利用で、特にイギリスからの来訪が多かった。 ・コロナ末期でも登山者はある一定程度の来訪者が見られた。 ・施設運営において利用者数は、2022 年度で底を打ち回復傾向。ただし、利用者数の増減はコロナ禍や観光船事故、物価高騰など、複合的な影響を受けていると考えられ、トレンド的な予測が難しくなった。 <p>■利用者・参加者数の意識・行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客さんのガイドに対しての信頼度が高くなっている。昔はガイドの言うことを聞いてくれないお客さんがいたが、現在は 100%近くの人がガイドの言うことを聞いてくれるようになった。 ・観光船事故以来、ガイドツアーには二名連れのお客さんが多くなった。 ・過去 2 年間、知床五湖の特定時期の渋滞や混雑が少なくなった印象。入込数の減少に加え、旅行行動等の変化も考えられる。 ・車中泊やキャンピングカーの利用が増加しているが、地域の受け入れ態勢が不十分なこともあり、ゴミの投棄などの課題が増えている。 ・2021 年までに起きていた混雑回避的な意識の変化や行動は、2022 年では見られなくなったように実感するが、検証はできていない。客層などは、コロナ前に戻った印象。

③ツアーで使用しているフィールドや地域の自然環境について

気になることや心配なことがある	9 団体
気になることや心配なことはない	5 団体

■ ツアーで使用しているフィールドの自然環境について

- ・（知床五湖）2023 年は特にヒグマの出没が多く、利用者によるヒグマの目撃も多かった。
- ・（厳冬期知床五湖ツアー）暖冬の影響によるツアー催行可能日数の減少。
- ・（カムイワッカ）2023 年度は利用範囲が1の滝以奥に広がったこともあり、利用期間中の滝補助員によるヒグマ目撃数が53件あった。2023年から利用を有料化し自由な入渓が無くなったことで入渓者数が前年度比3分の1程度に減少したが、これがヒグマが近づきやすい環境を助長していると思われる。次年度以降も今年度同様のヒグマ出没が想定されることから、安全管理を徹底することが重要と考える。
- ・（羅臼岳登山道）通行を妨げる機や枝が撤去されておらず、頭をぶつける人を多く見かけ、危険である。また、ハイマツ等が伸びてきており、登山道を狭めている個所もある。それら避けるため、登山道の踏み荒らしや複線化が見られた。登山道外から登山道上に侵入する草本は林野庁の管理（国有林内）であるが、これまでも登山道外の伐採は原則実施していないため、登山道の不必要な広がりや複線化が発生していると理解している。
- ・（知床五湖）五湖のスイレンの繁茂が加速度的に進行しており、集中的な対策が必要と感じる。

■ その他地域一般の自然環境について

- ・シカの食害のため草原が笹原・ワラビの群生地に替わり、草原で繁殖する鳥が見られなくなった。
- ・温暖化による海水温上昇でエサになる魚が減少し、ウミウ、カモメ等海鳥の断崖での繁殖が放棄されている。
- ・雪解けが早く、春先のエサだった鹿をクマが狩れなくなり、早春の緑・花のナニワズが鹿に食べられ、群生地がなくなり全滅状態。
- ・雪解けが早いいためリスが隠しておいた木の実等がシカ・クマ等に食べられやすくなり、将来的にリス等がいなくならないか心配。
- ・漁獲量が減少しており、野生動物への影響が心配である。日本は漁獲管理が海外と違う。日本だけが漁獲量が減少しており、漁獲可能量に届いていない。昔の乱獲が影響している。現在に至るまで資源の管理が良くなく、漁獲圧は増えている。
- ・ヒグマ出没数の増加、利用者によるヒグマの目撃数増加。（特に2023年）。（複数回答）
- ・公園内外を問わず、ヒグマの目撃遭遇が増加し、観光利用に影響を及ぼしている。ヒグマの行動パターンも変化しており、特定時期、特定場所以外のヒグマの活動も目立っている。
- ・降雪量や積雪深の減少傾向が認められ、積雪期が短くなっている。

④その他（コロナ禍による変化や観光船事故の影響等）

■コロナ禍・観光船事故の影響等

- ・観光船事故の影響は大きく、2022年は活動を自粛した。2023年はコロナ過前に戻すことが精一杯。
- ・コロナ禍から観光船事故となり、海対象のツアー客は激減、以前は多かった観光船クルーズとハンドブックのセット販売による物品収益がほとんど無くなった。
- ・コロナ禍より観光船事故の方が影響が大きかった。旅行会社の「知床」の名前がついたツアー商品は集客が悪く、知床を謳った商品企画をしてくれない。個人客は戻りつつあるが、団体客の落ち込みが大きいことが他の地域との集客の差となっている。2024年の流水シーズンのツアーの集客も良くない。良いのはインバンドがらみの商品である。
- ・（知床岬 399 番地上陸ツアー）コロナ禍で実施中止となり、2022年に事業終了。コロナ禍、観光船事故の影響で、観光客入込みはコロナ前の6割～7割程度。
- ・（厳冬期のエコツアー）もともとインバウンド比率の高い事業だが、コロナ禍では国内若年層の参加が目立った。
- ・（コロナ禍以降）今年の春先から乗客数は戻ってきたが、8月のファミリー層の利用は薄かった。

■改善点の提案

- ・観光船事故により「知床」のブランド価値が損なわれ、新型コロナウイルス感染症の5類移行後も他地域と比較し観光客の入込数の回復が遅れている印象だが、それでも知床に魅力を感じて訪れる観光客は多いので、リスクマネジメントの確立が重要と感じる。
- ・観光船事故の影響は大きく、今後数年は続くと思われる。北海道にはアウトドア資格制度があるが、陸域に限定されている。安全管理も含めマリンガイド資格制度を行政主体で作成すべきである。知床は海域も遺産地域だが、陸域ばかりで海に対する認識が疎かで欠けている。知識を持ったマリンガイドがいれば観光船事故も防げたと思われる。
- ・羅臼岳登山道における多言語化が進んでいない。

■エコツーリズム戦略・WG/検討会議について

- ・ヒグマと利用者との遭遇の可能性が増えていることに対して、アクセスコントロールなどの対策が十分に議論できていない。エコツアー検討会議で3年間のバスデイズの成果を十分に検証できてはいない。
- ・コロナ対策やリスク管理、野生動物対策など観光や利用面での課題が山積している現状において、エコツーリズム検討会議の役割は大きい。実効性を伴った施策の実施や地域の合意形成に先導的な役割を果たすべき。エコツーリズム戦略の見直し検討もスピード感を持って進めるべき。
- ・世界自然遺産に指定され20年、知床は全ての根底にエコツーリズムの精神が流れている地域なのだから、いつまでもエコツアー、エコツアーではなく、知床は根底にエコツーリズムが流れている地域である、と打ち出せば良い。
- ・（コロナによる影響に加えて観光船事故の影響もあるので、分析は難しいと思うが）、コロナ前、コロナ中、コロナ後で利用がどう変化したかについての検証が必要だと思う。

以上

知床のエコツーリズムを含む観光利用に関する聞き取り調査シート

知床世界自然遺産地域をより良い状態で維持するために、地域の関係者の皆さまを対象にエコツーリズムを含む観光利用に関する取組みをお伺いしています。いただいた回答は、貴重なデータとして知床世界自然遺産のモニタリングや関連する会議に活用され、将来にわたって知床の自然の恵みを持続的に利用していくことに役立ちます。回答者や個別の回答がそのまま公表されることはありません。

今回の調査では、2022年1月から2023年12月までの2年間の状況で回答ください。

団体名			
事業名			
事業内容			
記入日	令和 年 月 日	記入者	
		連絡先 TEL	

担当・問い合わせ先
 (受託事業者)
 公益財団法人 知床財団
 企画総務部 公園事業係(羅臼) 坂部
 TEL: 0153-87-2828 FAX: 0153-87-2876
 Email: sakabe@shiretoko.or.jp

以下の質問は、貴団体の事業やツアーについて直近の2年間の状況についてお伺いするものです。貴団体が実施している事業や、催行しているツアーが該当すると思われる箇所の□にチェックの記入をお願い致します。

① 「知床エコツーリズム戦略」の基本方針に沿って事業を実施しているかお伺いします。

【基本原則】

- 遺産地域の自然環境の保全とその価値の向上に貢献している。
- 世界の観光客への知床らしい良質な自然体験を提供している。
- 持続可能な地域社会と経済の構築に役立っている。

【エコツーリズムを含む観光利用の推進にあたって必要な視点】

- 事業、ツアーが、地域主体・自律的・持続可能である。
- 事業、ツアーでは、共有・協働・連携などのネットワークが構築されている。
- 自然環境の保全に配慮している。
- 利用者の自然生態系に関する理解が促進されている。
- 事業及びツアーが、地域の文化・歴史的背景を踏まえて実施されている。
- 利用者へ自己責任の原則が認知され、管理責任の分担が行われている。
- 事業、ツアーは知床のブランド価値を高めるという視点がある。
- 事業、ツアーは順応的管理型で実施されている。

直近の2年間で、「知床エコツーリズム戦略」に則り、特に力を入れて取り組んでいることや、新たに始めた取り組みなどがあればご記入ください。

② 利用者・参加者の数や意識、行動の状況についてお伺いします。

直近の2年間で、貴団体の事業の対象者又はツアーの利用者・参加者の数は、

- 増加している
- 減少している
- どちらともいえない

直近の2年間で、貴団体の事業の対象者又はツアーの利用者・参加者の意識（特に、自然環境への配慮や世界自然遺産・知床についての知識があるかなど）は、

- 変化している
- 変化していない
- わからない

利用者・参加者の数や意識、行動について、気付いた点や気になることがあればご記入ください。

③ 直近の2年間で、事業、ツアーで使用しているフィールドと地域の自然環境について、何か気になることや心配なことはありますか。

ある ない

「ある」方は内容をご記入ください。

④ その他、知床のエコツーリズムに対するご意見など、事業・ツアーを実施してお気づきのことがあればご記入ください。（コロナ禍による変化や観光船事故の影響など）

ご協力ありがとうございました。